

令和 7 年 7 月 15 日
気象庁大気海洋部

配信資料に関する技術情報第 654 号

～全般季節予報支援資料（1 か月予報）の構成の変更について～
（配信資料に関する仕様 No. 20113 関連）

令和 7 年 9 月から、「全般季節予報支援資料」のうち 1 か月予報の資料について、より分かりやすい資料となるよう構成の変更を行います。天候のポイントや予報資料の解釈を集約した形に変更しますが、配信に係る仕様（ファイル形式、ファイル名、配信日時等）の変更はありません。新たな資料の構成イメージは資料 1 のとおりです。

・実施日

令和 7 年 9 月 4 日

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年5月22日

予報期間: 5月24日～6月23日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

1

特に注意を要する事項・出現の可能性が最も大きい天候

特に注意を要する事項

東・西日本では、期間の前半は気温の変動が大きいです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わります。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東・西日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

2

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:30:60	30:40:30	30:40:30	
	太平洋側		30:40:30	30:40:30	
東日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
西日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
沖縄・奄美		20:30:50	30:40:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:50:30	10:30:60	20:30:50
東日本	60:30:10	20:30:50	20:30:50
西日本	60:30:10	20:30:50	20:30:50
沖縄・奄美	30:50:20	10:40:50	10:30:60

3

全般1か月予報のポイント

全般1か月予報のポイント

・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、北日本と沖縄・奄美で高く、東・西日本では平年並か高いでしょう。また、東・西日本では、1週目は寒気の影響を受けやすいため気温は低くなりますが、その後は暖かい空気に覆われやすいため高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいです。

・東・西日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

4

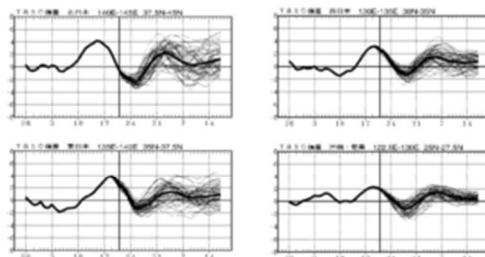
(注) 実際の支援資料の4ページ分をまとめたイメージです。

各週における天候のポイント(気温)



	1週目 (5/24~5/30)	2週目 (5/31~6/6)	3~4週目 (6/7~6/20)
想定される天候(気温)	東・西日本では、気温は低いでしょう。 北日本と沖縄・奄美では、気温は平年並でしょう。	全国的に、気温は高いでしょう。	全国的に、気温は高いでしょう。
根拠	東・西日本は前線帯の北側にあたる。(P.13参照)	日本付近の500hPa高度が上昇。(P.12-13参照)	日本付近の500hPa高度が高い状態が続く。(P.12-13参照)

850hPa気温偏差時系列



5

各週における天候のポイント(天気)



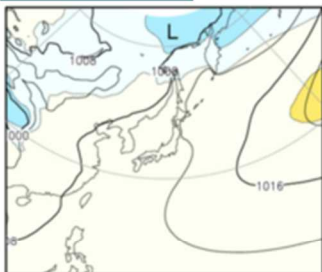
	1週目 (5/24~5/30)	2週目 (5/31~6/6)	3~4週目 (6/7~6/20)
想定される天候(天気)	北日本と東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わってでしょう。 東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	北日本と東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。 東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	全国的に、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
根拠	前線帯は本州南岸中心。(P.13参照) 東・西日本は「梅雨のはしり」。	前線帯の活動が1週目より弱まる。(P.13参照) 東・西日本の「梅雨のはしり」は解消を見込む。	日本付近は平年程度の西谷。(P.12参照)

6

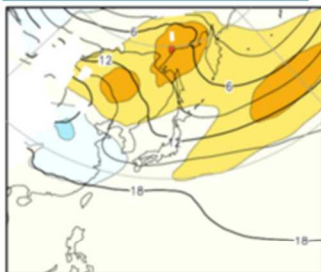
数値予報モデルからみる全般1か月予報のポイント



海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)



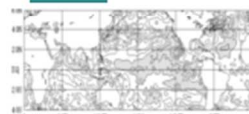
1か月平均の海面気圧(左図)は、黄海付近と北日本付近で高いほか、日本の南でも高いと予測されています。一方、間に位置する本州南岸付近では、気圧の谷が予測されています。このため、東・西日本を中心に前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。
上空約1500mの気温(右図)は、華北から黄海付近では低い一方、カムチャツカ付近と日本の南で平年より高いと予測されています。このため、日本付近では、平年より高く、暖かい空気に覆われやすい見込みです。

7

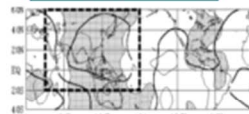
予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場



SST偏差



200hPa速度ポテンシャル



200hPa流線関数



SST偏差: 熱帯域ではインド洋と南シナ海からフィリピンの東にかけて正偏差。
200hPa速度ポテンシャル: インドからフィリピン付近にかけて上層発散偏差。アジアモンスーンに伴う対流活発に対応。
200hPa流線関数: 上層発散偏差に対応して、チベット高気圧が平年より強い。関連して、黄海付近にはトラフ、日本の東を中心にリッジ。
850hPa流線関数: 日本の南東海上を中心に高気圧性循環偏差。
降水量: インド付近から東南アジア付近にかけて多雨偏差。日本付近では、東・西日本を中心に多雨偏差。

850hPa流線関数



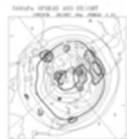
降水量



8

(注) 実際の支援資料の4ページ分をまとめたイメージです。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場



500hPa高度: 日本を含む広い範囲で、正の高偏差確率50%以上の強い正偏差。日本の東で高度が高く、日本付近は西谷。但し、日本付近には、スプレッドの大きい領域がみられ、不確実性が大きい。



850hPa気温: 華北・華中から東シナ海にかけて負偏差、一方、オホーツク海付近では強い正偏差。日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧: 黄海付近と北日本付近に高気圧があり、日本の南にも高気圧。その間に位置する本州付近では、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

500hPa高度

850hPa気温

海面気圧

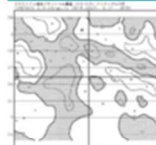


9

予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動



200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



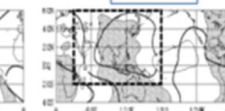
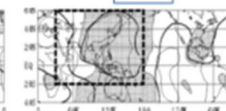
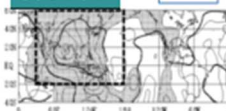
200hPa速度ポテンシャル: 実況で見られる上層発散偏差域がインド洋を北進し、1週目にはインドから東南アジア付近にかけて上層発散偏差となる。その状態は次第に弱まる。夏季の熱帯季節内変動の位相に対応。降水量は、1週目を中心にアラビア海から東南アジアにかけて多雨偏差で、その状態は次第に弱まる。

200hPa速度ポテンシャル

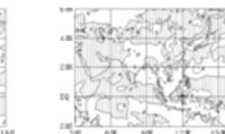
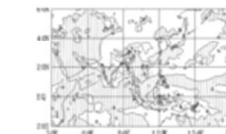
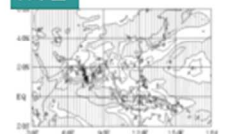
1週目

2週目

3~4週目



降水量



10

予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場



200hPa流線関数: 1週目は中東からミャンマー付近にかけてと日本の東にリッジ、華中付近にトラフで、日本付近は西谷。2週目は華北・華中付近でリッジが強まるが、日本の東にもリッジ。3~4週目には華北・華中付近のリッジは弱まるが、日本の東のリッジが強まる。

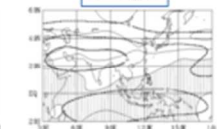
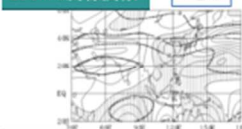
850hPa流線関数: 1週目は北日本付近と日本の南東海上にそれぞれ高気圧性循環偏差。沖縄・奄美付近は相対的な低気圧性循環偏差。2週目は日本付近は低気圧性循環偏差。3~4週目は日本の東海上に高気圧性循環偏差。

200hPa流線関数

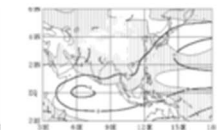
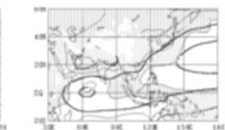
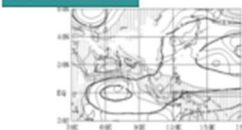
1週目

2週目

3~4週目



850hPa流線関数



11

予報資料の解釈(各週) 北半球循環場



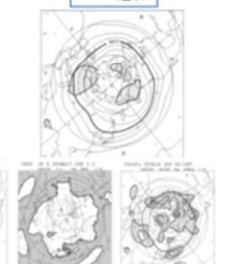
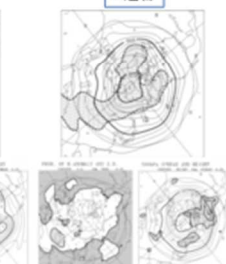
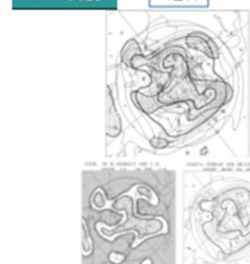
500hPa高度: 1週目は寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、日本の東海上では正偏差。また、亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、東シナ海付近で負偏差。2週目以降、日本付近は正偏差で、沖縄・奄美を中心に正の高偏差確率50%以上の領域に覆われるが、3~4週目には日本付近にはスプレッドの大きい領域がみられ、不確実性が大きい。

500hPa高度

1週目

2週目

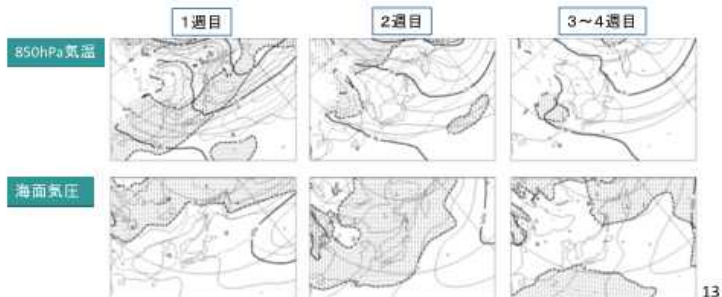
3~4週目



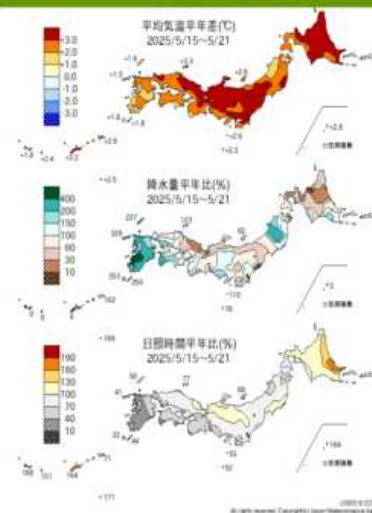
12

(注) 実際の支援資料の4ページ分をまとめたイメージです。

850hPa気温: 1週目は東・西日本を中心に負偏差。2週目以降、日本付近は全国的に正偏差。東・西日本では、期間の前半は気温の変動が大きい。
海面気圧: 1週目は沖縄・奄美から本州南岸付近にかけて気圧の谷で、東・西日本太平洋側を中心に梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすい。2週目は梅雨前線に対応する気圧の谷は不明瞭となるものの、日本付近は負偏差で、北・東・西日本日本海側では、湿った空気の影響を受けやすい。3～4週目は本州南岸に平年と同様に気圧の谷が予測され、全国的に平年同様の天候を見込む。



13



最近1週間(5月15日～5月21日)は、北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりましたが、太平洋側を中心に高気圧の縁辺を回る湿った空気や前線の影響を受けやすかったため、日照時間は、平年を下回りました。降水量は、低気圧や前線の影響を受けにくかった北日本や東・西日本日本海側では平年を下回った所が多かった一方、東・西日本太平洋側では、平年を上回った所もありました。沖縄・奄美では、沖縄地方を中心に太平洋高気圧に覆われやすかったことから、降水量は平年を大きく下回り、日照時間は平年を大きく上回りました。気温は、全国的に南からの暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、平年を大きく上回った所が多くなりました。

14

(注) 実際の支援資料の4ページ分をまとめたイメージです。